

笹川記念保健協力財団 地域啓発活動助成

(西暦) 2018 年 2 月 19 日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
会 長 喜 多 悦 子 殿

2017 年度地域啓発活動助成

活 動 報 告 書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

中学校との地域連携・多職種連携事業「生命学」体験授業

活動団体名： 首都大学東京

活動者（助成申請者）名： 飯塚 哲子

活動課題

中学校との地域連携・多職種連携事業「生命学」体験授業

研究代表者：飯塚哲子

共同研究者：木村千里

I 活動の目的（背景を含む）

本研究は、中学校との地域連携・多職種連携事業を健康保健教育支援として実施した「生命学」体験授業の効果を検討することを目的としている。なお、本文では、「生命学」体験授業、「いのちを考える」体験授業は、同じ意味として表記している。

厚生労働省は 2001 年にいのちの電話の相談活動に補助金の交付を開始し、自殺予防活動の一環として 12 月 1 日を「いのちの日」と制定した。文部科学省は 2005 年から「道德教育総合支援事業」を展開して、学校・地域の実情などに応じた多様な道德教育を支援するため、道德教材の活用をはじめ、道德教育の充実のための外部講師派遣、保護者・地域との連携など自治体による多様な事業への支援を行ういのちを大切にすることを育成する道德教育の一層の推進を図っている。さらに「2006 年版文部科学白書」の中で、児童生徒がいのちの大切さや他人を思いやる心、いのちをテーマにした体験活動の推進を提唱している。これらの施策は教育現場でさまざまな「いのちの教育」実践の推進力となっている（菊地亜弥子，2007）。また 2008 年小学校及び中学校の新学習指導要領（3 月 28 日告示）では、自他のいのちを尊重する心を育てることを重視し、体験活動の充実を図っている。

II 活動の内容・実施経過

1. 活動方法

【活動研究デザイン】

近隣中学校との地域連携・多職種連携事業「生命学」体験授業を一事例として取り上げる事例研究デザインとした。

【データの種類、データ収集と分析方法】

データは 2014 年度から 2016 年度に実施した内容に関する活動準備、実施計画、レビューの各段階における研究代表者と研究分担者との会議資料と作成資料、中学校との合同検討会議事録、2017 年度に実施した内容に関する活動準備、実施計画、レビューの各段階における研究代表者と研究分担者との会議資料と作成資料、中学校との合同検討会議事録とした。

上記の質的データについて、教育資料を評価するための基準である内容、プレゼンテーション、教育を促進するための資料の特性に合致した内容をカテゴリゼーションマトリックスに抽出した。

【活動の実際】

活動準備

研究費配分期間以前の活動準備期間に以下の準備を行った。

体験授業実践に向けて実施内容を検討（5～9 月）

- 1) 研究代表者と研究分担者とで 2016 年度に実施した内容を省察して課題を抽出する。
- 2) 中学校との合同検討会を開催し、体験授業プログラムの内容を検討する。
- 3) 2017 年度の体験授業プログラムの準備、内容、調査項目の吟味をする。

実施

体験授業の実施は 10～12 月とした。

実施内容

- ◆ 対象者とプログラムの位置づけ:地域内にある中学校の理系を選択した中学 3 年生 30 名で、当該科目は中学校の選択必修科目であった。
- ◆ プログラム実施項目:以下の 6 点である。
 - 1) 心臓の音を聴いてみよう!
 - 2) 血液中の酸素濃度を測ってみよう!
 - 3) 実習室にある心電図・車椅子を見てみよう!触れてみよう!
 - 4) 人体の模型を見ながら考えよう!一女性の身体と性周期、出産の準備とプロセス、子どもを育てる経験とソーシャルサポート
 - 5) かけがえのないいのち、あなたが「今」できること
 - 6) メディカルプロフェッションとしての「看護」という仕事

評価

体験授業プログラムの評価は 1～2 月とした。

- 1) 体験授業プログラム終了後に研究代表者と研究分担者とで、教育資料を評価するための基準、取り組みと学び、体験の内容の視点から開始年度からの体験授業プログラムの評価を行う。
- 2) 中学校との合同検討会で教育資料を評価するための基準、取り組みと学び、体験の内容の視点から開始年度からの体験授業プログラムの評価を行う。
- 3) 地域連携協働の学校保健・健康教育について考察する。

2. 倫理的配慮

中学校との合同検討会議事録は中学校の担当教諭を介して実施した。その際、データには実施施設名を含め、身元確認情報を含めず、秘密保護、本研究費による報告書への掲載の可能性とそれ以外に公表しないことを事前に説明し、中学校の担当教諭が籍を置く学校長の同意を得て実施した。

III 活動の成果

教育資料を評価するための基準である内容については、生徒のニーズに合っており、妥当な研究報告に基づき、正しく信頼できるエビデンス、解剖学や生理学により確証された原則を情報に含めるという点は担保できたと考えられた。また、語りと視覚的なメッセージを含む資料は一致しており、複雑で理解が困難であると思われる内容を強調することを回避するシンプルなアプローチが実現できたと考える。

また、プレゼンテーションの側面については、生徒が関心をもっており、新学習指導要領に準じた知識レベルに相応した内容であると考えられた。内容は、生体の徴候を知り、感じ取るという内容と女性の身体のしくみを知るという内容、将来の健康維持とそれを守る専門職という内容を基軸とし、授業目的に合わせ組織化された内容であったことが共有された。視聴覚教材を適宜、使用し

関心を維持する適切な長さであったと考えられた。

さらに、教育を促進するための資料の特性に関しては、生体の徴候と正常値、女性の性周期はモデルや機器を用いて実践的な情報が提供され、異常値や代表的な疾患とデータを対比させることで、生徒自身の生命徴候や健康について振り返る機会を提供する内容となっていたことが確認された。資料の出典は、匿名性を考慮して一部提示していないものもあり、今後の課題として共有された。

本研究のプレ実践として 2014 年度に「いのちを考える」をテーマに地域内近隣中学校と協働で本校施設を開放して中学 3 年生を対象に体験授業を実施した。さらに 3 年間の蓄積と 2017 年度の実践から、将来を見据えて地域連携学校保健・健康支援事業として継続していくことにより、現代社会においていのちを考える機会を通して、他者へのまなざし、思いやりを育む可能性が示唆された。

現代のいのちをめぐる状況は、死や喪失を日常生活の中から排除、隠蔽し、前向きに物質繁栄を目指していた 1970 年代前半を境に少しずつ変化してきた。その変化の根底には、いのちの量つまりいのちの長さを問うことより、いのちの質が問われるようになり、いのちをより豊かなものにするために、いのちにかかわる教育・学習へと人々の関心の高まりがあった。このことは、いのちの問題が医学的立場からだけではなく、広く現代社会の課題として一人ひとりが日常生活の中から捉え始めたことを意味している（柳田邦男,1988）。

しかし、近年の状況は、核家族化、長寿化、終の棲家は病院（厚生労働省大臣官房統計情報部,2014）、という社会的背景を踏まえると、青少年がいのちについて正面から考える場面に出会う機会が著しく少なくなっている。さらに今日、誕生から死にいたるまで人々はさまざまな危機に遭遇することも事実である。育児不安、乳幼児虐待、学級崩壊、フリーターの増加、リストラ、中高年期の離婚や自殺、といった成長発達のさまざまな時点で、人々は危機的な問題を解決しなくてはならない。とりわけ、われわれの明日の文化社会を担う青少年の育成に危機的状況が生じている。少年犯罪は低年齢化傾向を示し、青少年がターゲットになる犯罪も増えており、2015 年 2 月 20 日に神奈川県川崎市で発生した中学 1 年生の悲惨な事件は記憶から消えることはない。

青少年期の発達課題は、自分で工夫し判断して問題を解決する力、いわば「生きる力」を育むことにより、社会的自律性や思考の自律性を身につけることである。そのために青少年への教育的働きかけの実践について問題意識をもち、青少年のいのちの教育実践を通して、健全な発達を促す効果につながると考える。

体験授業の様子

- ◆ プログラムにそって実施した体験授業の様子は次の通り。あらかじめ参加者全員に口頭で画像を記録すること、広報、報告書で活用することを周知して了解を得ている。



聴診器を使って心拍数を測ったり、触診で脈拍を数えたり、心電図の波形にも興味津々！



重いア～8kg の妊婦体験ガウン！おかあさんもこんなに大変だったのかしら・・・(左・中央)
3,000g の新生児人形のほっぺはこんなに柔らかい 赤ちゃんのような感触・・・(右)



中学生のいのちを考える体験授業に関心のある学部 3 年生が学習をサポート(左・中央)
図書館棟シミュレーションルームで、眼を開け、唸る FIJICO さん人形の心音を聴く中学生(右)

IV 今後の課題

体験授業の実施とそのプログラムは、以下の 4 点において有効に活用できると考える。

- 1) 「いのちを考える」体験授業は地域連携と健康保健教育の双方から地域貢献に寄与する。
- 2) 生きる力を育み、誰もがもっ掛けがえのないいのちを実感して他者への関心、共感をもつ。
- 3) 「いのちを考える」体験授業は汎用性のあるプログラムとして普及する。
- 4) 体験授業を受けた青少年は看護に関心をもち、将来の職業選択の範囲がひろがる可能性をもつ。

今後は地域連携協働事業・健康保健教育支援としてさらに継続性かつ汎用性のある体験授業プログラムの刷新に向けて検討することが求められる。

V 活動の成果等の公表予定(学会、雑誌)

以下の学会での発表、学会雑誌への投稿について、看護医療系学会のほか、教育学分野への公開も視野に入れて予定している。

- ・ 2018 年度日本保健科学学会
- ・ 2018 年度日本社会教育学会
- ・ 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) 18-19 January 2019 in Singapore

VI 文献

- 1) 菊地亜弥子 (2007) 体験活動を核とした「いのちの教育」の単元開発. 上越教育大学紀要 教育実践研究 第 17 集, 157-162.
- 2) 柳田邦男 (1988) 自分の死を創る時代へ, 河合隼雄・柳田邦男編: 現代日本文化論 6 死の変容. 岩波書店, 224.
- 3) 厚生労働省大臣官房統計情報部 (2014) 平成 26 (2014) 年度人口動態調査特殊報告 死亡数、死亡の場所・主な死因・性別. (家庭死から病院死への時代的変遷は、1947 年に家庭死 90.8% であったが、1977 年には病院死が家庭死を上回り 50.6%、1991 年には病院死 75%である。)